

ハンセン病問題に関するシンポジウム

● 目的 ●

ハンセン病やエイズなどの人権について、シンポジウムや演劇を通して学び、差別や偏見を乗り越え、すべての人が「共に生きる」ための、より良い社会づくりに貢献することを目的とします。

● プログラム ●

- オープニング ■ 合唱／鹿児島県立松陽高等学校音楽部
- 主催者代表あいさつ ■ 厚生労働省、法務省、鹿児島県、鹿児島市
- シンポジウム ■ 司 会／石塚 勝郎（鹿児島県教育カウンセラー協会代表）
■ パネリスト／池間 哲郎（NPO法人アジアチャイルドサポート代表理事）
岩川洋一郎（国立療養所星塚敬愛園入所者自治会長）
前野 芽（鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科2年）

- 演 劇 ■ 「光の扉を開けて」／沖縄の子どもたちが演ずる感動作



- フィナーレ ■ 大合唱／「世界に一つだけの花」
出席された皆様もご一緒に歌ってプログラムを盛り上げましょう。

● 前回来場者の声 ●

2011年11月に開催された【人権フォーラム2011 in 静岡】

来場されたお客様からたくさんの感動の声が寄せられました。

- 合唱、シンポジウム、演劇共に感動しっぱなしで涙があふれて止まりませんでした。(53才女性)
- 劇は、共に生きることについて考えさせられました。過去の過ちをきちんと見つめることも大切なんだと思いました。(女子高校生)
- 偏見・差別についてあまり考えた事がなかったけれど池間さんの報告には胸が痛んだ、深く考えさせられた。反省と共に素晴らしい時間をありがとう。(65才男性)
- 人として知らなければならぬことを学べた気がします。また伝えようとする力のすごさを感じました。(30才男性)
- シンポジウムで見た映像は何も知らなかった僕にとって大きな衝撃でした。今日このシンポジウムに来られたことは自分の人生にとってとても大きなものになると思います。(男子高校生)
- 正しい知識を身につけることが周りの人にも自分にも大切なことになるんだということを実感しました。(19才女性)